

調査結果について

調査概要

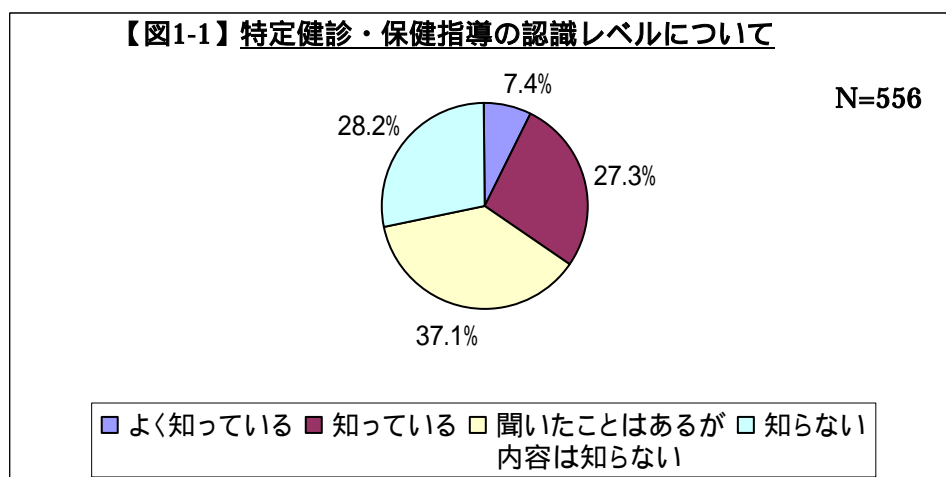
1. 調査対象：全国の40歳以上男女
2. 調査方法：web アンケート方式
3. 調査日：2008年2月22日～2008年2月27日
4. 有効回答者数：556人
5. 回答者属性：

男性	447	80.4%	40～44歳	157	28.2%
			45～49歳	158	28.4%
			50～54歳	66	11.9%
			55～59歳	48	8.6%
			60～64歳	13	2.3%
			65～69歳	4	0.7%
			70歳以上	1	0.2%
女性	109	19.6%	40～44歳	44	7.9%
			45～49歳	40	7.2%
			50～54歳	12	2.2%
			55～59歳	10	1.8%
			60～64歳	1	0.2%
			65～69歳	1	0.2%
			70歳以上	1	0.2%

調査結果データ

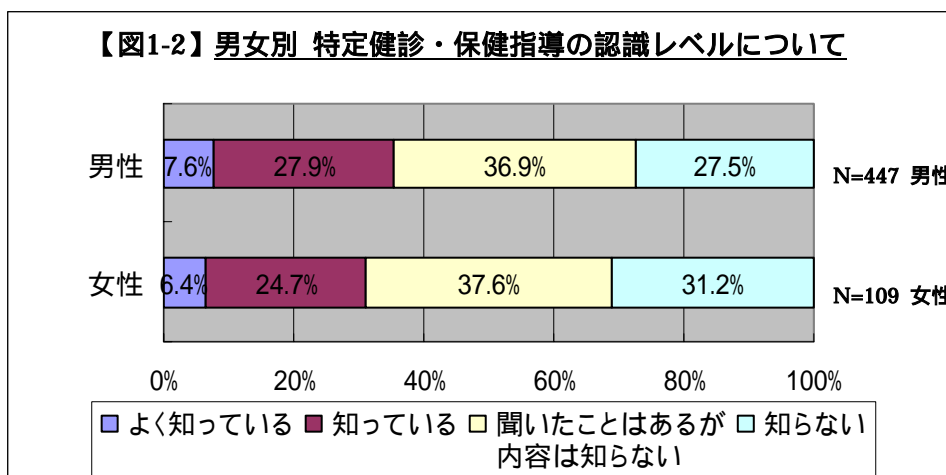
(1) 受診対象者の大半が特定健診・保健指導そのものを認識していない

認識（よく知っている、知っている）しているのは34.7%。「聞いたことはあるが内容は知らない」が37.1%、「知らない」が28.2%で、回答者の65.3%がこの制度をまだ認識していないことが分かりました。社会的に注目されている特定健診・保健指導ですが、受診対象者らには十分に浸透していないことがうかがえます。【図1-1】



よく知っている	知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	合計
41	152	206	157	556
7.4%	27.3%	37.1%	28.2%	100%

男女別で認識（よく知っている、知っている）しているとした回答をみると、男性が35.5%、女性が31.1%と、わずかながら男性の方がこの制度への関心度が高いことがうかがえ、メタボリックシンドロームを気にしていることが推察できます。逆に女性に対する認識度向上が今後の課題といえます。【図 1-2】



男性

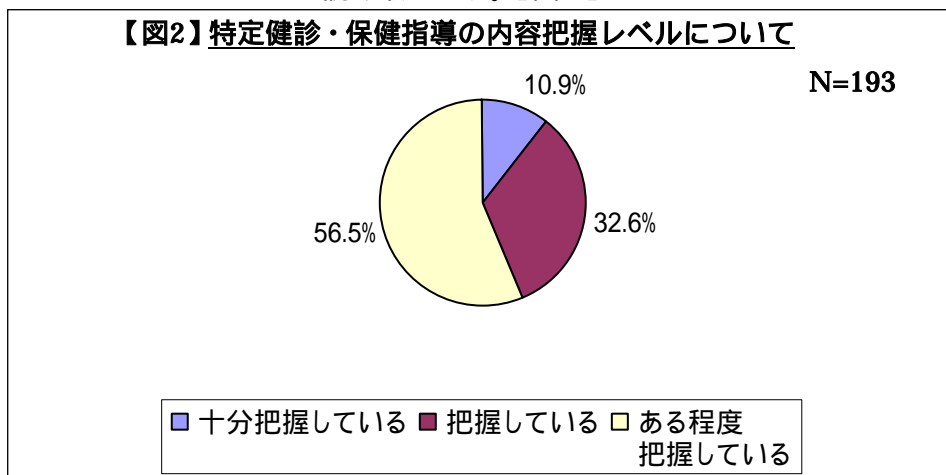
よく知っている	知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	合計
34	125	165	123	447
7.6%	27.9%	36.9%	27.5%	100%

女性

よく知っている	知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない	合計
7	27	41	34	109
6.4%	24.7%	37.6%	31.2%	100%

(2) 認識していても詳細な内容の把握までは至っていない

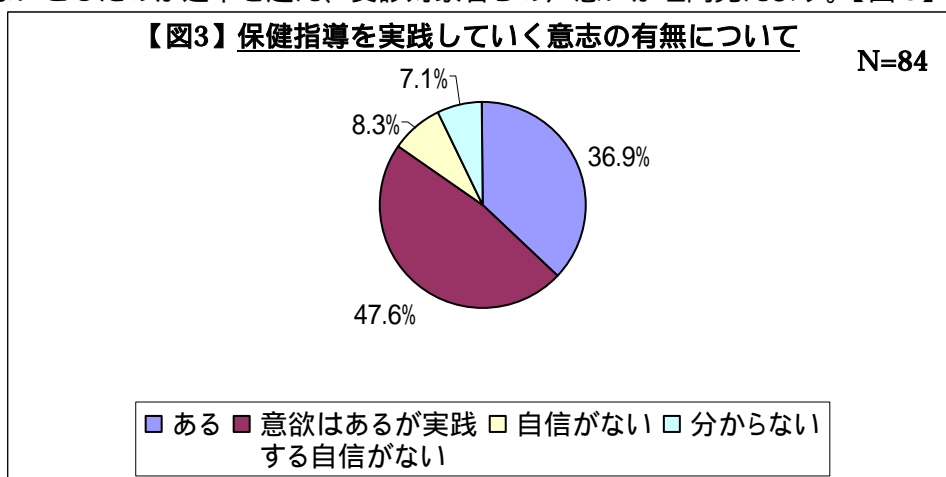
認識しているとした回答者が、この制度の内容を把握しているかどうかについては、「十分把握している」が10.9%、「把握している」が32.6%、「ある程度把握している」が56.5%となりました。この制度を認識している回答者でも詳細な内容となると十分な把握までは至っていないことが読み取れます。【図2】



十分把握している	把握している	ある程度把握している	合計
21	63	109	193
10.9%	32.6%	56.5%	100%

(3) 制度を認識していても約6割が保健指導を実践していく自信がない

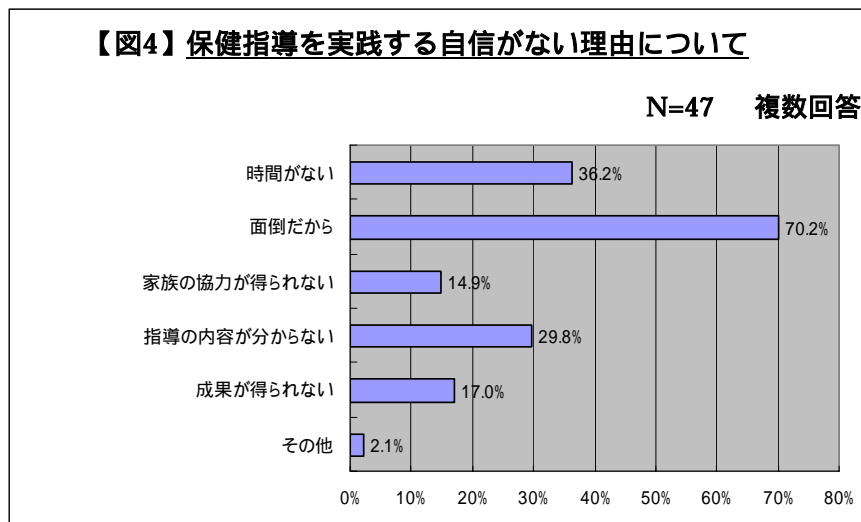
この制度の内容を把握している回答者でも、それを実施していく意志となると「自信がない」が8.3%、「意欲はあるが実践する自信がない」が47.6%となり、「ある」としたのは36.9%にとどまりました。実際に保健指導の対象になった場合に実践していく自信がないとしたのが過半を超え、受診対象者らの戸惑いが垣間見えます。【図3】



ある	意欲はあるが実践する自信がない	自信がない	分からない	合計
31	40	7	6	84
36.9%	47.6%	8.3%	7.1%	100%

(4) 指導内容を明確化し簡単に効率的に実施できる体制を整えることが必要

実践していく自信がないとした回答者がその理由として挙げたのは「面倒だから」(70.2%)が最も多く、次いで「時間がない」(36.2%)、「指導の内容が分からない」(29.8%)となっています。また、その他の自由回答で「メタボリックシンドロームの定義が不明確、根拠がない」といった意見もありました。保健指導を円滑に進めていくためには、指導内容を明確化し簡単に効率的に実施できる体制を整えることが必要だと思われます。【図4】



時間がない	17	36.2%
面倒だから	33	70.2%
家族の協力が得られない	7	14.9%
指導の内容が分からない	14	29.8%
成果が得られない	8	17.0%
その他	1	2.1%